

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2024年 9月 4日

(宛先)
滋賀県知事

澤村 成司

提出者

住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)
滋賀県湖南市丸山三丁目3番1号

氏名(法人にあっては、名称および代表者の氏名)
タキロンシーアイ 株式会社
滋賀工場 工場長 喜多 祐介

滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項・第25条第4項
第27条第1項・第27条第2項において準用する同条例
第26条第1項
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項の規定に基づき、事業者行動計画を策定(変更)事業者行動報告書を作成したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)	タキロンシーアイ株式会社 福田 祐士
事業者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	大阪府大阪市梅田3丁目1番3号

1 事業所の概要

事業所の名称	タキロンシーアイ株式会社 滋賀工場					
事業所の所在地	滋賀県湖南市丸山三丁目3番1号					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	1	8	2	1	※ 産業分類・細分類名称を記載 プラスチックフィルム製造業
事業の概要	プラスチックフィルム製造					
従業員の数	254 人			操業時間	24 時間/日	
該当する事業者 の要件	☒ 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500kgリットル以上の事業所を県内に有する事業者					
	☐ 従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者					
	☐ 任意提出事業者					
主要な設備	ボイラ	4	台	熱源設備	台	照明設備 台
	コンプレッサ	23	台	空気調和設備	台	その他

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	2024	年度	報告対象年度	年度
	終了年度	2026	年度		

3 計画の(内容・実施状況)

計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

環境理念 私たちは常に地球環境保護をこころがけ、人と地球と未来にやさしいモノづくりをめざします。

環境基本方針

1. すべての企業活動における環境負荷低減と脱炭素の推進
2. 環境に配慮した技術開発と製品提供
3. 積極的な社会とのコミュニケーション

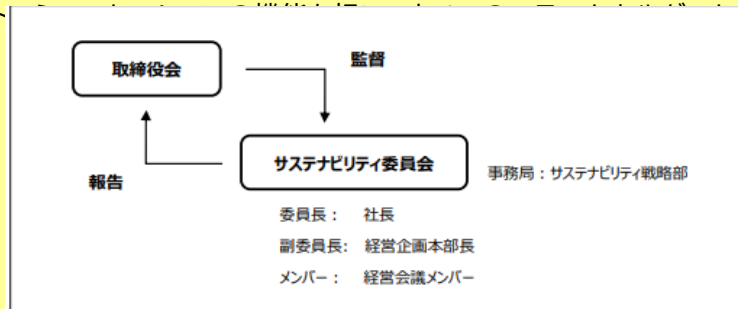
2 取組の推進体制

経営理念に地球環境保護を掲げ、環境規制の遵守、環境負荷の低減、環境配慮型製品の供給、省資源・省エネ・廃棄物の削減に取り組むために、環境管理規程・環境診断細則を策定しています。

俯瞰的かつ長期的なサステナビリティ経営の戦略と実行をマネジメントする機関として

「サステナビリティ委員会(委員長：社長)」を新設しました。加えて、サステナビリティ戦略の実効性を高めグループ全体にて推し進めるため、経営企画部からその機能を切り離し、「サステナビリティ戦略部」を設置し、推進体制を整えました。サステナビリティ戦略部はコーポレート・ガバナンスや

コーポレート・コミュニケーションの対話を進めます。

3 これまでに取り組んできたCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組

省エネ

- ① ☒ ア、蒸気漏れ修理と圧力設定の見直し
- ② ☒ 照明のLED化
- ③ ☒ 空調設備の更新による高効率化
- ④ ☒ 老朽化したボイラーの更新による高効率化
- ⑤ ☒ 排気機予熱時間管理の徹底
- ⑥ ☒ 温室空調設備の見直しで、過剰空調の適正化
- ⑦ ☒ 不要設備撤去による待機電力のカット
- ⑧ ☒ 蒸気ドレンの排熱回収
- ⑨ ☒ 蒸気配管の保温化徹底
- ⑩ ☒ 老朽蒸気配管の更新
- ⑪ ☒ 滞留まり向上による省エネ
- ⑫ ☒ 排水の再利用

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	運用改善	蒸気、エア漏れ修理と圧力設定の見直し	継続実施	適時実施
2	運用改善	エアコンのメンテナンスと設備改善	継続実施	適時実施
3	運用改善	エアブロー箇所の見直し	継続実施	適時実施
4	運用改善	熱媒ボイラの運用見直し	継続実施	適時実施
5	設備導入	電力改善装置の導入	実施予定	

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1				
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
上記(1)の取り組みにより、令和5(2023)年度を基準年度とし、以下の数値目標の達成を目指します。 温室効果ガス送料排出量3年後に3%削減する。 令和5年度排出量 11,391t (2023年度定期報告書) 削減目標 令和6年度末までに1%削減する、排出量 11,277t 令和7年度末までに1%削減する、排出量 11,163t 令和8年度末までに1%削減する、排出量 11,049t	

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

		計画開始年度 前年度の 実績	実績報告				
			(6)年度	(7)年度	(8)年度	(9)年度	(10)年度
原油換算エネルギー 使用量	kL	6,830					
温室効果ガス 総排出量	t-CO ₂	11,391					
エネルギー起源 CO ₂	t-CO ₂	11,391					
非エネルギー起源 CO ₂	t-CO ₂						
CH ₄	t-CO ₂						
N ₂ O	t-CO ₂						
HFCs	t-CO ₂						
PFCs	t-CO ₂						
SF ₆	t-CO ₂						
NF ₃	t-CO ₂						
エネルギー等原単位の推 移		0.433(kl/t)					

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

(第3面)

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1			
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	
2	
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ()	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

		計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
再エネ電気設備での発電量	kWh						
上記のうち自家消費量	kWh						